



健診センターニュース

今回は、人間ドックの検査項目にある「呼吸機能検査」についてのお話です。



この「呼吸機能検査」、得意という方はなかなかおられないのではないのでしょうか。どちらかといえば「難しかった～」という方が多いように思います。

「呼吸機能検査」は、その名のとおりに“呼吸の状態”を調べる検査です。スパイロメーターという器械を使い、喘息や慢性閉塞性肺疾患（COPD）、間質性肺疾患などの呼吸器の病気がないかを調べます。鼻から空気が漏れないようにクリップでつまみ、マウスピースという筒を口にくわえて、検査技師の指示に合わせて大きく息を吸ったり吐いたりします。

～ この検査でわかること ～

年齢、性別、身長から算出された予測肺活量に対して、実際の肺活量が何%であるかを調べます（%肺活量といえます）。80.0%以上が基準範囲で、79.9%以下では肺の膨らみが悪い、ということになります。その場合、間質性肺炎や肺線維症などの病気が考えられます。

また、最大に息を吸い込んでから一気にはき出し、最初の1秒間に何%の息を吐き出せるかを調べます（1秒率といえます）。この値が69.9%以下の場合には慢性気管支炎、肺気腫などの慢性閉塞性肺疾患が考えられます。

○ 間質性肺炎

肺の間質という部分に炎症が起こり、壁が厚くなって（線維化）、血液中に酸素が取り込まれにくくなる病気です。日常動作で息切れを感じる、痰を伴わない咳などが症状として現れます。比較的ゆっくり進行しますので、症状を自覚した段階では病気が進んでいることもあります。

原因は様々ですが、はっきりしない場合もあります。

○ 慢性閉塞性肺疾患（COPD）

肺気腫、慢性気管支炎などの肺の疾患です。歩行や階段の昇降など身体を動かしたときの息切れ、呼吸困難や、慢性的な咳、痰などの症状がみられます。

原因の1番は喫煙で、喫煙者の15～20%がCOPDを発症します。進行すると在宅酸素療法が必要になります。

心配なことがある方は、一度検査してみましょう。



検査当日のお薬の服用についてお願いします！

ドック・検診を受けられるとき、朝いつも飲むお薬を飲んでこられない方がおられます。「食後の薬だし、今日は食事をしてないから飲んでこなかった」「絶対飲食と書いてあるから飲まなかった」などが理由のようです。

基本的には、何かお薬を飲んでおられる場合は、いつもと同じようにお薬を飲んでいただきたいのですが、糖尿病のお薬については、食事をせずに飲むと低血糖を引き起こす危険性がありますので、検査当日は飲まないようにしてください。

その他のお薬は飲んでいただくようお願いいたします。特に、血圧を下げる薬や抗血栓薬（血液をさらさらにする薬）、心臓の薬などは、休薬すると脳出血を起こしたり、逆に血管が詰まったりする危険があり、胃カメラ検査ができない場合があります。安全に検査を受けていただくためにも、自己判断をせず、必ず常用薬の服用をお願いします。

胃カメラ検査の実施は、早くても9時以降になりますので、6時頃（検査の3時間前）に飲んでいただいたら、充分予定ど

りに検査はできます。3時間前に服用できない場合でも、検査時間を少し遅らせるなど調整させていただきますので、その場合は受付時にお申し出ください。

事前に送付させていただく「ドック・健診のご案内」の中にも記載させていただいておりますので、必ずご確認ください、注意書きのとおりをお願いいたします。

健診のご予約・お問い合わせは下記までお気軽にお電話ください。

〒624-0906
舞鶴市宇倉谷427 健診センター
TEL(0773)75-1920
FAX(0773)75-7380
月～金 8:30～17:00
(土・日・祝日・年末年始12/29～1/3・創立記念日6/1)